

理科の授業を考える。

岡崎市現職研修委員会理科部長 葵中学校長 荻須 文裕

理科とはどのような教科なのだろうか。

この大きなテーマについて、2018年と2019年の2回にわたって理科部報に少しばかりの提案を込めて稚拙な私見を記述した。3回目になる今年は、もっと柔らかく、漠然と、理科のイメージを考えてみたい。

「理科は、○○○だ。」

「この○○○に、あなたならどのような言葉を入れますか。文字数にはとらわれず、短い言葉で考えてみてください。」

研修会で話をする機会を得た折に、みなさんにこのような問い掛けをした。参加して下さった先生方を試すようで申し訳ないが、こちらが意図する答えに導こうとの意図はない。理科の授業をどのように捉え、考えているのか意識を聞いてみたかったからである。

もちろん問われた方々には、理科が得意な先生もいらっしやれば、苦手意識をもっている先生も混在している。それゆえ、「好きだ。」「嫌いだ。」などのストレートな回答も、また、全く異なる多種多様な回答も飛び出し、とても興味を引かれた。

例えば、「理科は、ドキドキだ。」「理科は、ビクビクだ。」という直感的な回答もあれば、「理科は、実験観察だ。」「理科は、追究だ。」と授業の中心的な活動を捉えた回答も見受けられた。また、「理科は、宇宙だ。」とか「理科は、虫メガネだ。」という回答もあり、なかなか意味深い言葉に、理科の本質をついているのかもとうなされた。かつて先輩の先生が口にされた「理科は、実物が一番だ」という言葉も、これに通じているように思う。

随分前のことになるが、理科の全国大会が関東のとある中学校で開催された。その折に、全体発表の会場となっていた体育館のステージには「理科は、ワクワクだ！」と大きく掲げられていた。これは、生徒の姿を象徴したものだろう。実験・観察に向かう目の輝き。疑問が次第に解き明かされる過程の不安や喜び。「自然にはたらきかける」と表現される追究にのめりこむ姿には、確かに「ワクワク」や「ドキドキ」が似合っている。授業では、先生の視点と子どもの視点の両面があることは無論である。しかし、理科について言えば、たとえ専門の先生でも、教科書にある事柄の更に深いことについて何も分かっていないというのが本当ではないだろうか。だから、子どもと一緒に自然を追究していくことに、喜びや感動があるように思われる。

ところで、5月22日の中日春秋に、ときおり理科教育で話題となる話が再掲載された。

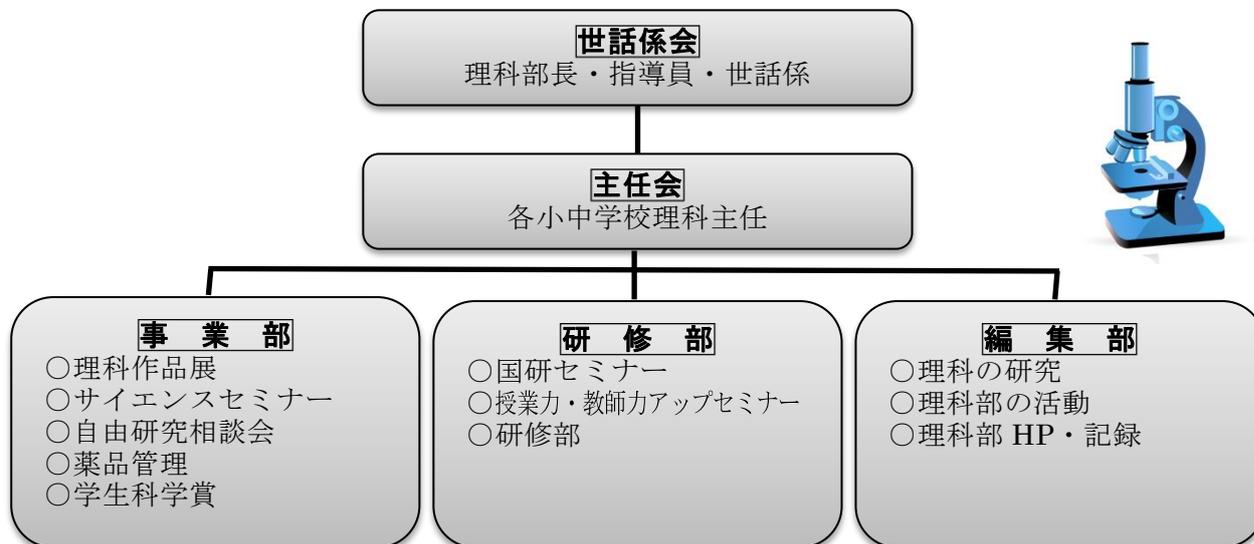
「氷がとけたら何になるでしょう。」というテストで、「水」ではなく「春」と答えて誤答となった児童の話である。今回は環境問題のリード文として書かれているが、1980年の天声人語や92年の産経抄には、子どもの自由な発想を生かせない硬直的な教育への批判として掲載された。この話にはフィクション説がある一方で、2010年の天声人語には実話として読者の手紙が紹介されている。真偽の程はともかく、「水」以外の回答に思いを馳せるのはおもしろい。恩師でもある理科教師の大先輩は、理科の本質は何かとの無謀な質問に「水の流れ」と即答された。氷が溶けて小川となり、やがて大海をつくるのが自然であれば、さもありなんと恐れ入った。ちなみに、私が「理科は、○○○だ。」と問われれば「浪漫」という言葉を入れたいと思うのである。

令和3年度の活動計画（概要）

4月15日（木）	現職研修委員会総会	理科部会	葵中学校体育館
4月28日（水）	第1回 理科主任会	総合学習センター	ホール1 ・理科部組織の構成 ・本年度の行事検討 ・研修部の活動概要
6月18日（金）	第2回 理科主任会	総合学習センター	ホール1 ・理科作品展について
7月28日（水）	授業力アップセミナー（第57回夏期実験実技講習会） 第131回 国研セミナー		
8月31日（火）	教育研究大会		
9月3日（金）	第3回 理科主任会	総合学習センター	小ホール ・理科作品展について ・「理科の研究」の編集について
10月8日（金）	理科作品展準備		
10月9日（土）	第68回 理科作品展（科学の祭典）	総合学習センター	・第23回 木村資生科学賞 ・2021年度 未来の科学者賞
10月22日（金）	岡崎の科学を語る会（未定）		
11月	第132回 国研セミナー		
2月	「理科の研究」第60集発行、第133回 国研セミナー		
3月 末	「理科部の活動」第45集発行		
その他	自由研究相談会、不要薬品回収、自然科学研究機構によるサイエンスセミナー、広報活動等		



令和3年度 理科部組織



○木村資生博士顕彰基金運営委員会 ○スーパーサイエンススクール推進事業
○三河教育研究会 ○ソニー科学教育研究会（SSTA）愛知支部 ○初等理科教育研究会三河支部

お知らせ

理科部報をホームページでの紹介に加え、紙面でもお届けいたします。理科部員をはじめ、是非、多くの先生方に読んでいただきたいと思います。回覧をお願いいたします。また、ホームページも御覧ください。